

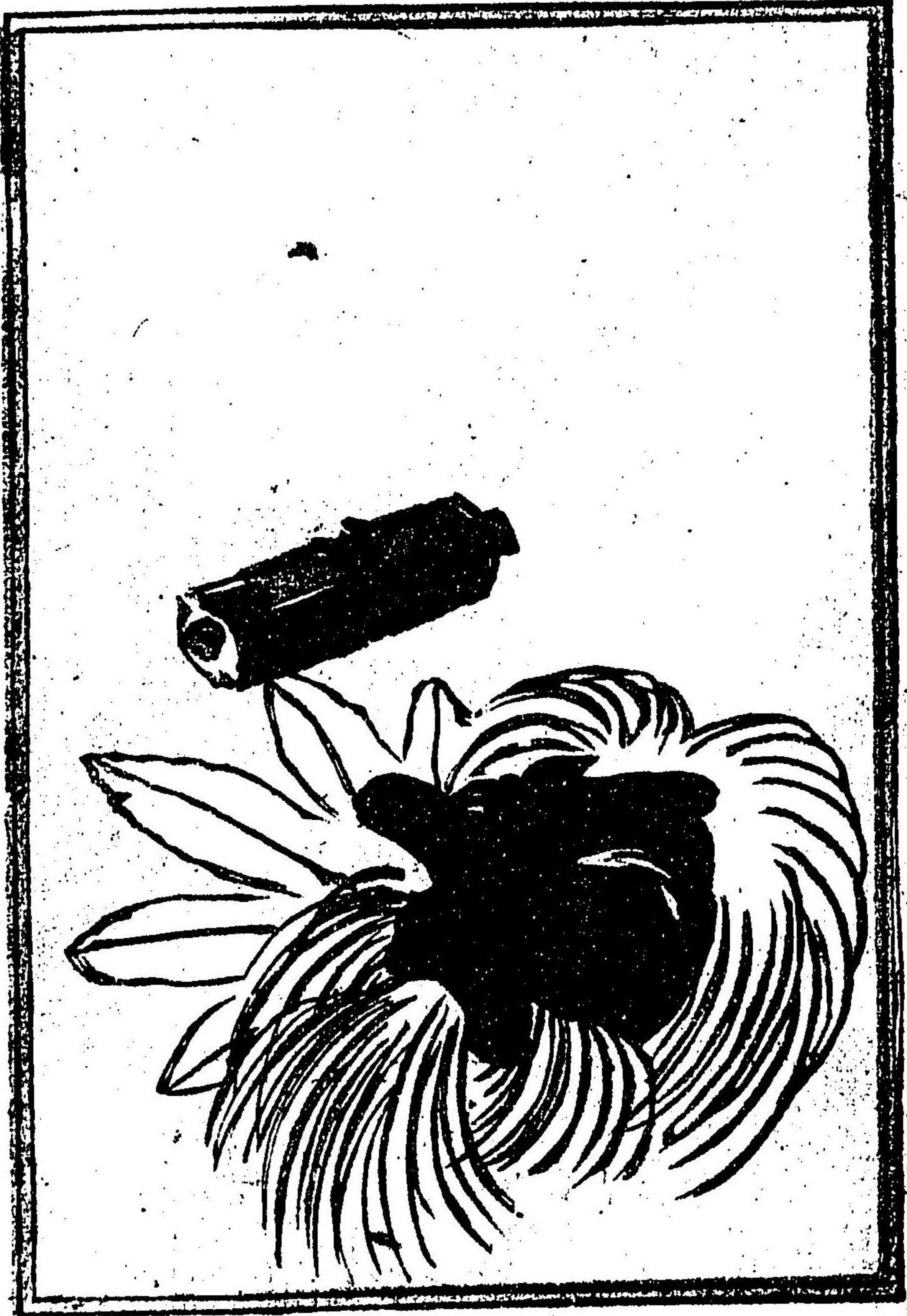
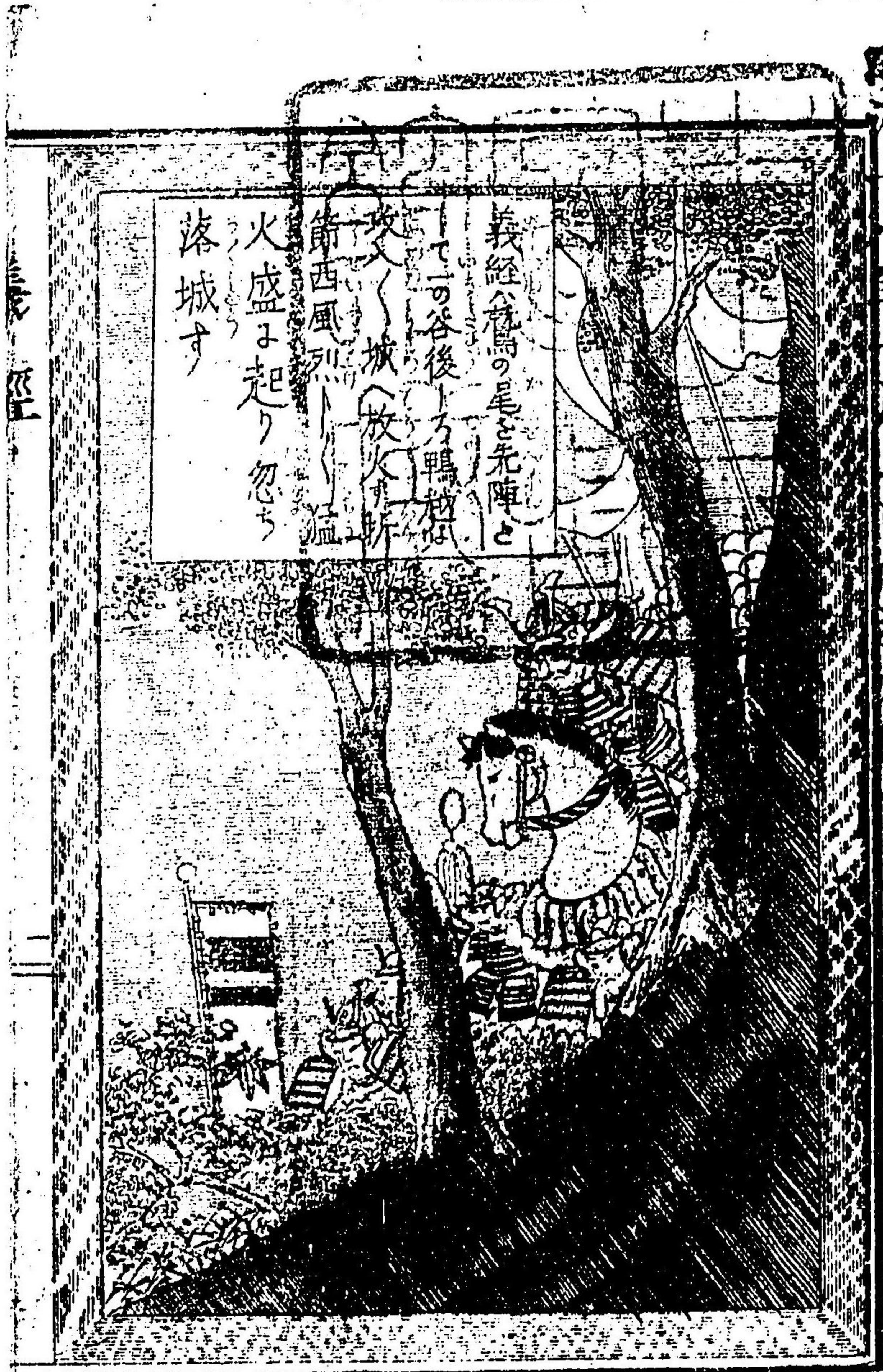
159  
943



繪本義經代記全

金壽堂版  
岡友筆

明治十八年十月五日大務省雜行



義經



義經





牛若軍騎女粧を以て  
笛を鳴らして五條の橋上  
と行く弁慶其女粧を  
怪しき雉刀を以て懐き牛  
若得たりと渡り合暫し  
戦ひて其進退の凡る  
ちきよも弁慶竟に降参  
のち無市臣の名を頭ひ

牛若丸



弁慶





平軍襲撃の評定は  
 義經逆櫓を用ひんと  
 云ふを佞臣梶原遮り  
 之を引く其論を破ら  
 んとを義經きりて  
 竟に逆櫓を用ひて  
 大勝を得たり

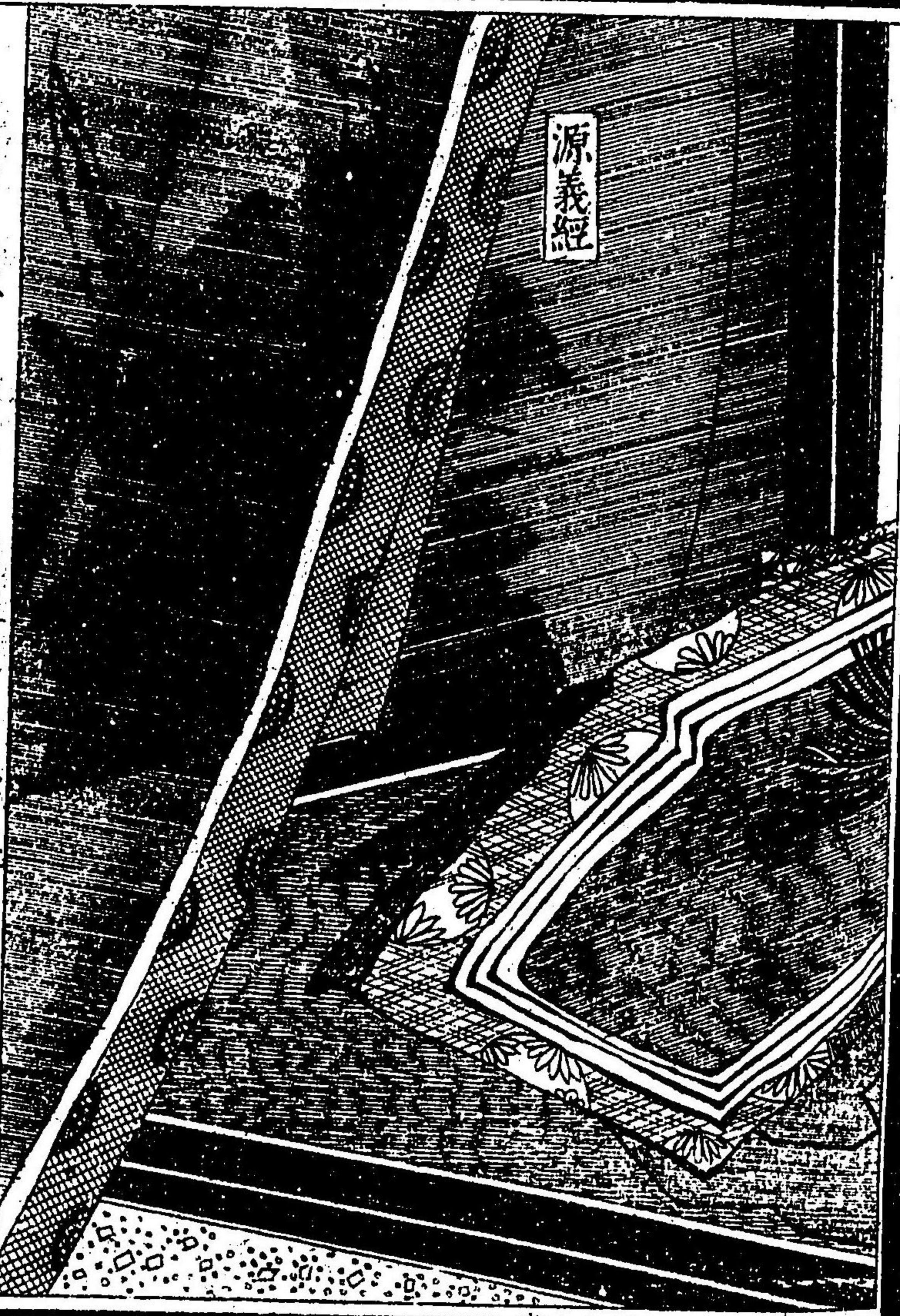
義經

平家の残黨安徳  
帝を御座船に移し  
て海に漂ふ  
源義經之を襲ふて  
自づから入り込みけ  
るを官女ら驚き帝  
を抱き水底に  
沈みしとぞ



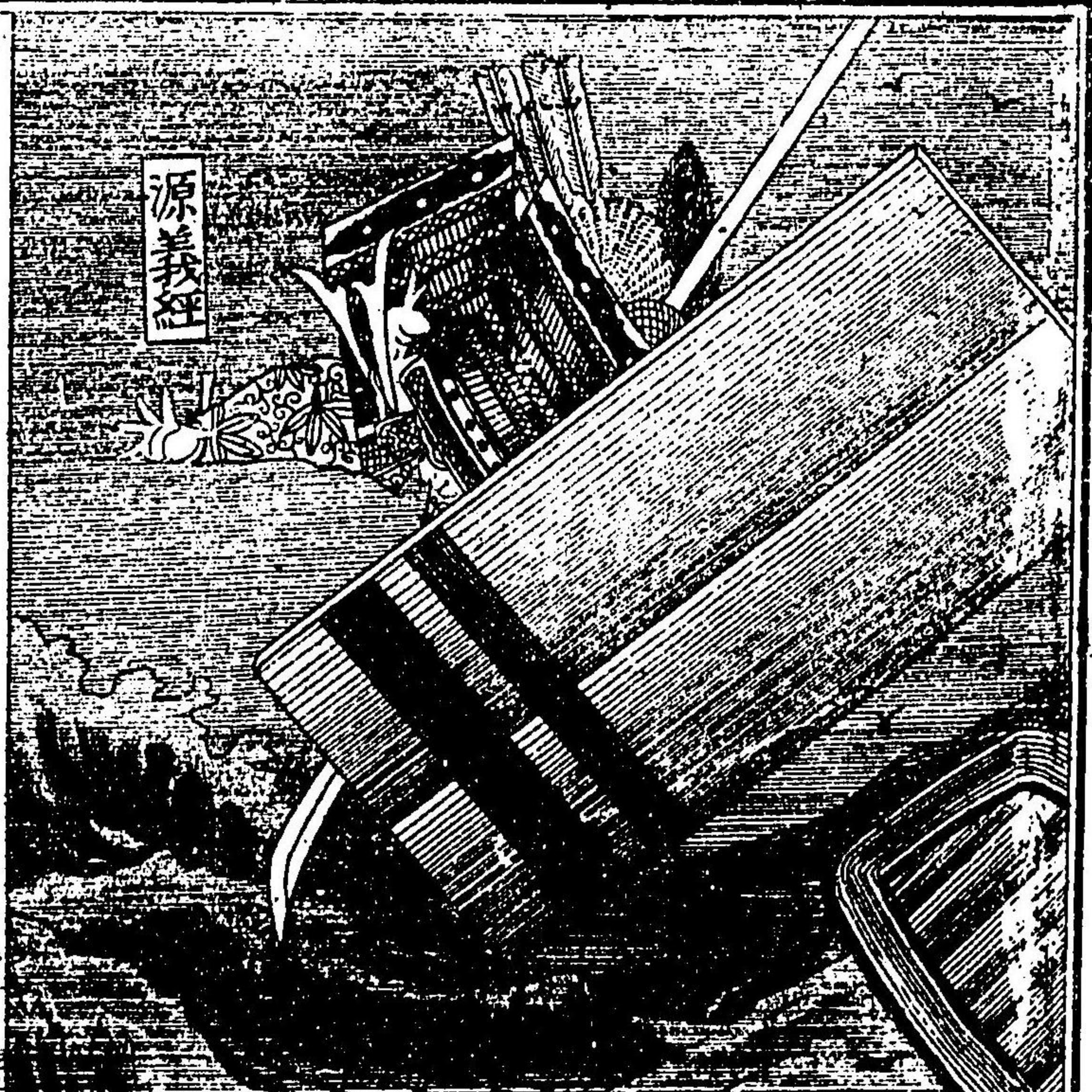
賢連門院

源義經



長経

源義經

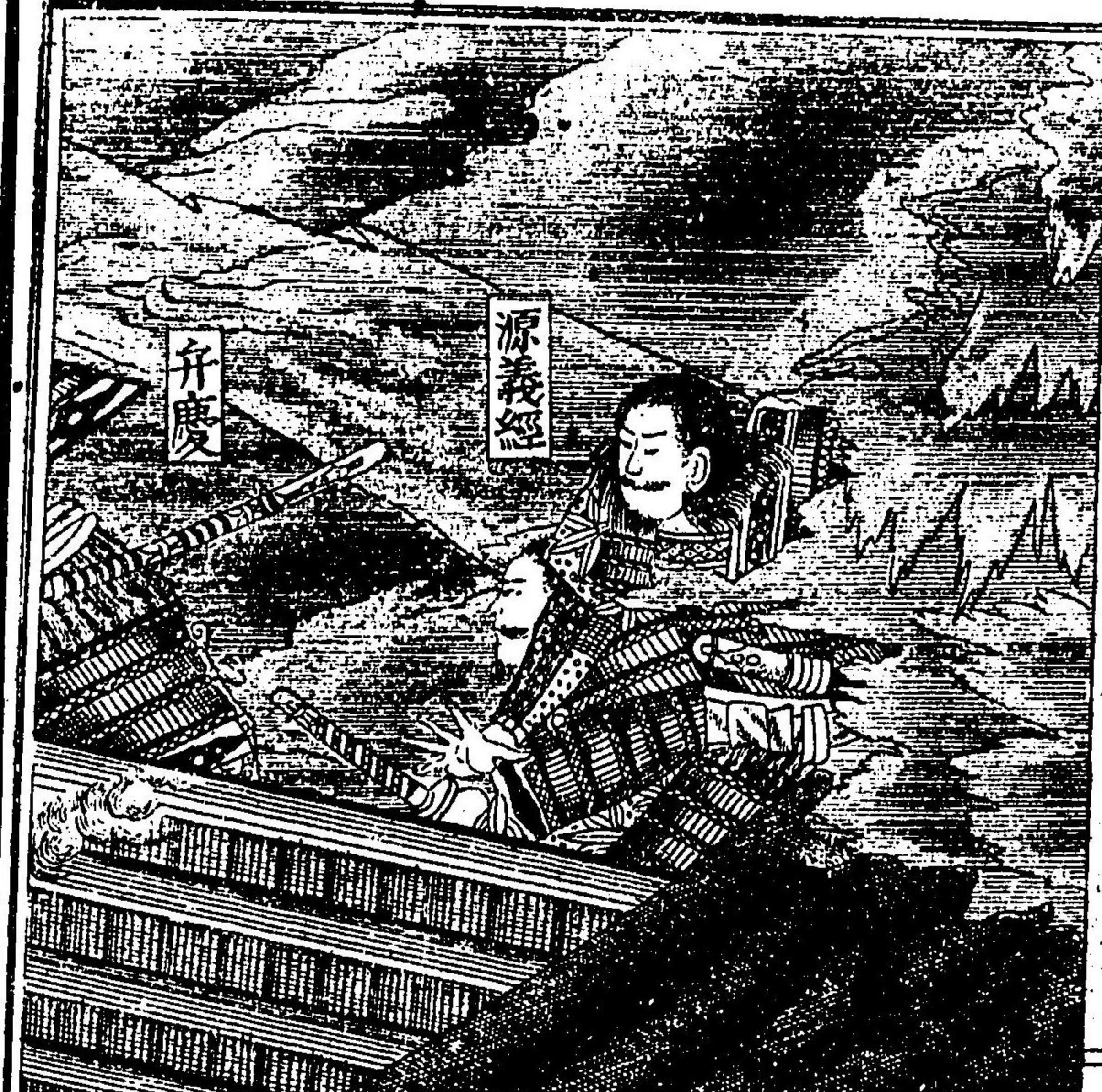
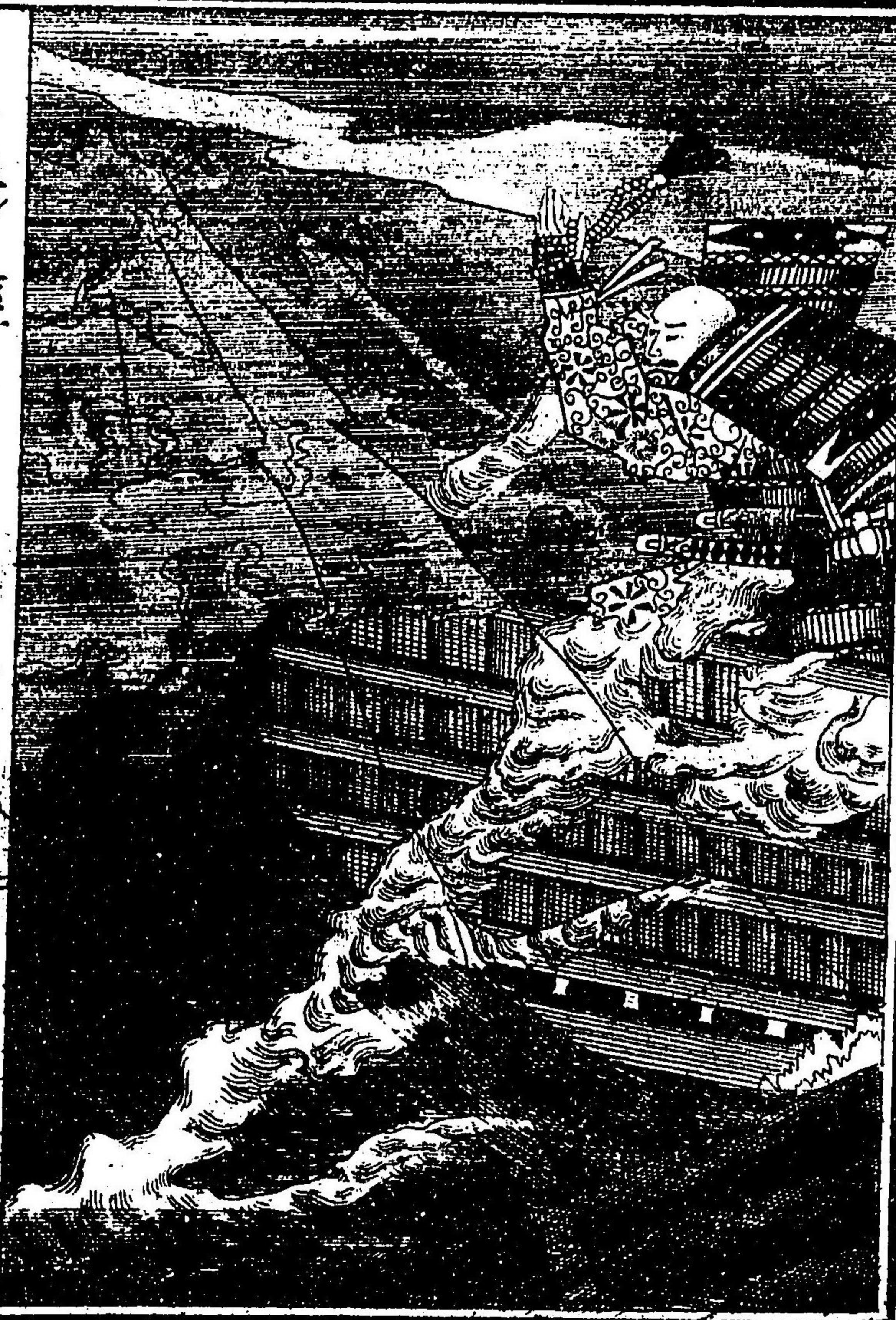


やまゝの浦の戦ひ不平  
 八島檀の浦の戦ひ不平  
 家の大将能登守教經  
 義經と戦ひし義經  
 叶はとや思ひけん身を  
 翻し軍船八艘を飛  
 ぶ教經も續く飛ぶ  
 といども不能源軍の  
 為め子亡命せり

教經







義經

義經堀川殿を立退き姪  
 國伊豫に赴むんとて  
 大物の浦より船出せしは  
 海上暴風激浪の中平  
 家一門の冥現をれしに  
 弁慶法力を以て退き  
 吹戻されしり

源義經

八

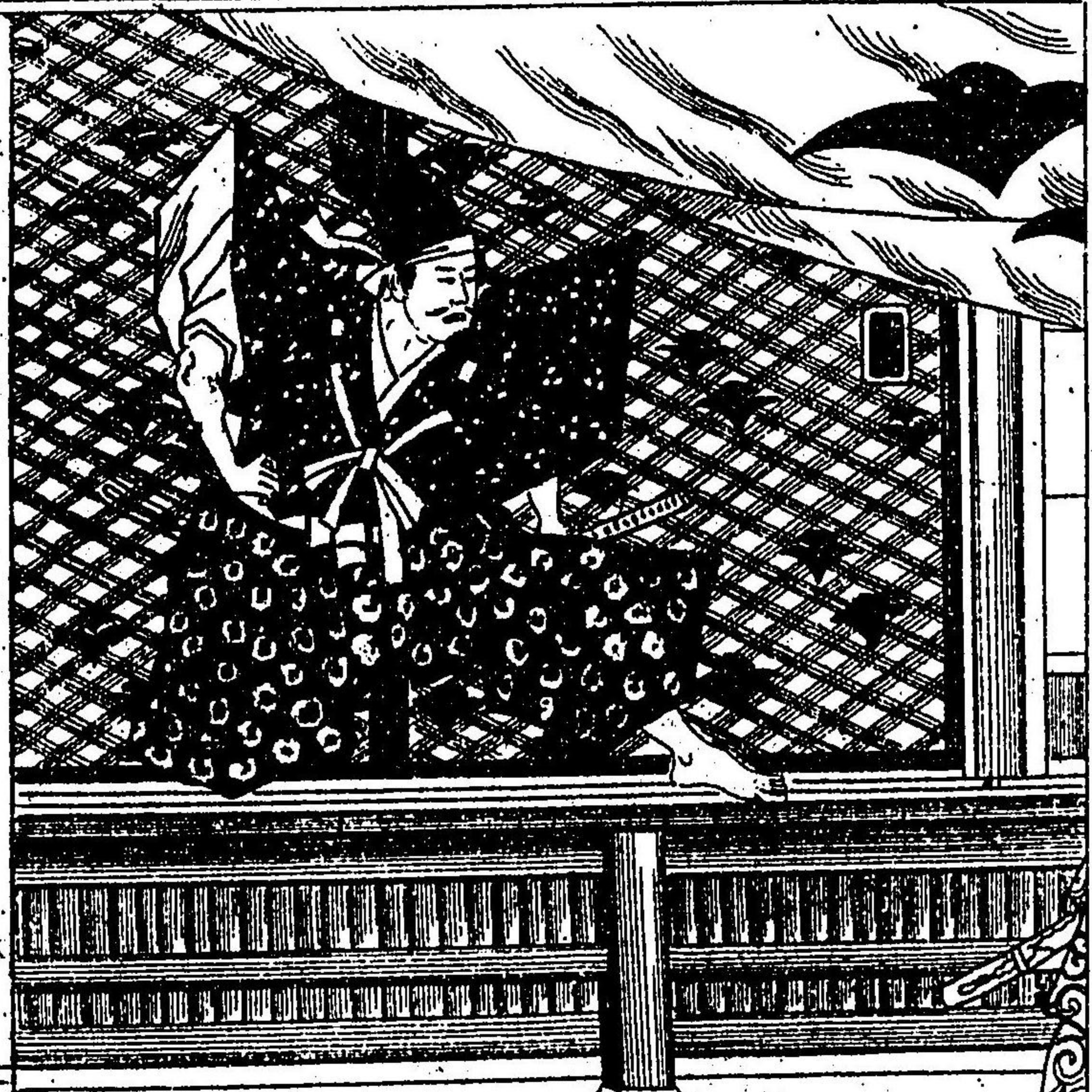


義經吉野山ノ籠  
 鎮倉達サレバ頼朝  
 吉野の大衆一命にて捕  
 下めんとも僧徒を  
 聞義經を追い出さんと  
 衆徒の頭覺範金剛力を  
 以て向ふ忠信渡り合  
 覺範を討止り



義  
 經

志づり



鎌倉より義經奥を  
 下向せしを聞き新開  
 を構へて其調いと嚴  
 しむれを義經主従山  
 伏の容貌をあり辨  
 慶大先達とありて  
 関守をさむりありん  
 ろく通行せ



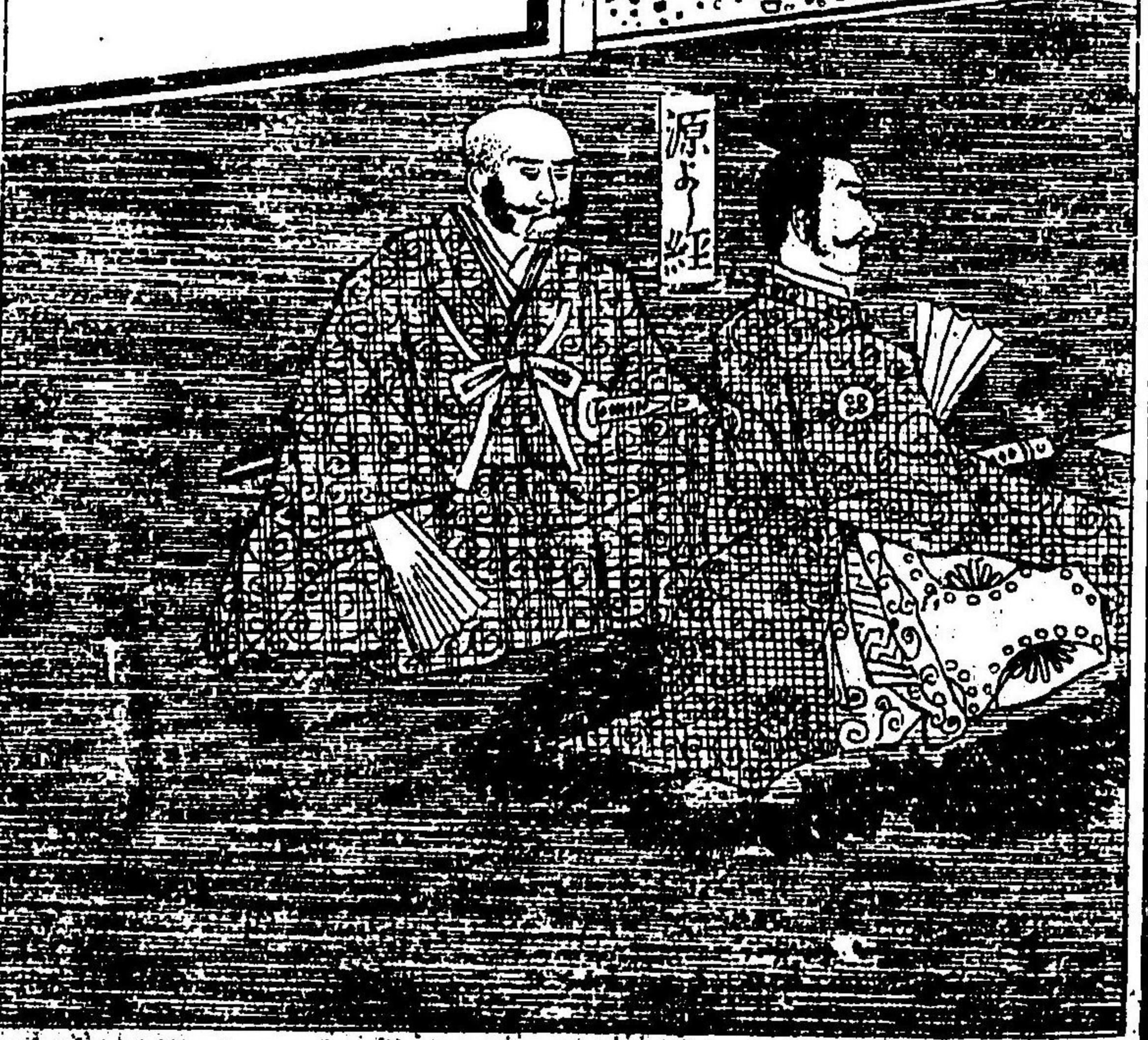


義經主従芳野  
 の山奥に居る  
 を悪僧共捕  
 んとせしを忠信  
 の甲冑を請ふ  
 終つ味方と共  
 り落しとそ

源義經



千辛万苦して奥州へ  
下向し再び秀衡を見  
後來の目途と定めん  
とま程あり秀衡  
死し其子叛逆の意  
あるにありて再び蝦  
夷地へ落しつらむと  
す



明治八年九月五日御届東京浅草区浅草南六町三番地十二

出陣兼 牧金之助

定價八錢